

1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成23年8月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071000428		
法人名	社会福祉法人 桜花会		
事業所名	ライフケア大手門	ユニット名	ライフケア大手門
所在地	福岡県福岡市中央区大手門2丁目5番15号		
自己評価作成日	平成23年7月1日	評価結果市町村受理日	平成23年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F
訪問調査日	平成23年8月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看取りの経験を重ね、急変時の対応等、スタッフの個々の能力も高まってきております。また、積極的な研修参加を目標に挙げ能力向上に努めています。入居者様へは特別な日課を設けず、出来るだけご家庭に近い環境を整備しながらQ.O.Lの向上、認知症の進行防止、筋力維持に努めていきます。また、入居者様の日々の記録を詳細にとり、御家族へも1ヶ月の御様子をお手紙で送付する等、情報の共有を図っています。複合施設の利点を活かし、他事業所との合同行事(運動会、秋祭り等)にも参加をして頂き交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡市中央区にホームはあり、通所サービス、特養等が併設されている。外部評価当日は大濠の花火大会。ホームが建物の最上階にある事から花火が見事に見え、今年も皆さんで楽しまれた。職員の方々は笑顔が温かく、接遇も徹底されており、その姿勢は、1階ですれ違った通所等の職員も同様であった。職員の皆さまの笑顔の背景には、法人全体の職員の育成に関わられている施設長(理事長の奥様)の存在があり、法人全体の研修内容は、毎年、改善が行われてきた。新人職員の研修初日には、必ず、施設長が理念などの説明と共に、社会人として必要な研修が盛り込まれ、各施設の“チームワーク”という視点も踏まえた異動も適宜行われている。職員毎の個別の育成が続けられてきたが、その施設長の教えもあり、ホームでも、主任等を中心に、ご利用者はもちろん、職員個々の良い所を引き出す取り組みが行われている。ご利用者との会話を大切にしている姿勢も続けられ、ご本人の喜びや寂しさにも寄り添うようにしてきた。外部評価当日、ご利用者が、「私たちは家族なのよ」と笑顔で話して下さった。今後も更に、その笑顔を引き出すために、福岡市と言う立地を活かし、更なる外出支援を目指しているホームであった。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4項目の理念を朝礼時に読み上げ、スタッフルームに掲示するなど共有を図り、理解を深めながら実践に繋げている。	「個人の尊厳を重んじ・・・医療と連携して・・・質の良い福祉サービスの維持及び向上を図るために・・・地域・世代間の交流拠点となり・・・開かれた施設創りに努める(抜粋)」という、様々な視点が盛り込まれた理念を共有し、地域高齢者と共にフラワーアレンジメント等の行事も行え、ご利用者の終末期ケアも行うことができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催や施設内の交流スペースを使用した『地域との交流、地域活動への入居者の参加を通じて交流を深めている。	公民館で行われる地域ふれあいサロンには、1～2人のご利用者が参加しており、小学校や保育園の運動会にも参加している。施設内で行う運動会にはボランティアの方が来て下さり、毎月、保育園児も来てくれている。併設する地域交流スペースも開放し、ボランティアのフラワーアレンジメントにも参加している。	地域の方々との交流を深めるためにも、運営推進会議への参加を呼びかけているが、なかなか難しい状況にある。今後も参加して頂きやすいように、行事の時に一緒に集う機会を作り、お顔馴染みになっていく事も検討予定である【外部評価3も同様】。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じ報告、またあらゆる場面で協力し合えるよう呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況や入居者様個々へのサービス内容等を報告し意見交換を行いながらサービスの向上に努めている。	ご家族からの意見もあり、報告会だけで終わらないよう、お菓子作り等も取り入れ、ご利用者にも気軽に参加して頂けるよう努めてきた。22年8月には、地域包括の方から“後見人”の講義もして頂き、勉強の場にもなっている。	地域の方々との交流を深めるためにも、運営推進会議への参加を呼びかけているが、なかなか難しい状況にある。今後も参加して頂きやすいように、行事の時に一緒に集う機会を作り、お顔馴染みになっていく事も検討予定である【外部評価4も同様】。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム協議会の勉強会等を通じ取り組んでいくよう努力している。	更新時などは、主に事務長が市役所に出向いている。年に5～6回行われている勉強会(協議会)には、なるべく職員が参加するようにしており、その時にはホームの事を報告している。市立小学校教諭の実習受け入れ等も行っている。	市の方に、運営推進会議等に参加して頂けるよう呼びかけを継続していく予定である。ホームでの看取りの状況、生活状況等、ホームの取り組みをより理解して頂ければと考えている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については内部研修においても学ぶ機会を設けている。また、施設において身体拘束廃止検討委員会を設置し取り組んでいる。	ご利用者の方々は穏やかに過ごされている。なるべく、ご本人の思いに寄り添うケアを続けており、スピーチブックにも配慮している。構造上、エレベーターは暗証番号を押して開けるようにしており、ご利用者には番号は伝えられていない。1階のラウンジや散歩等の希望がある場合には、職員が付き添いエレベーター操作をしている。	福岡市中心部にある立地上、エレベーターは暗証番号を押さないと使用できないようにしているが、今後も引き続き、“見守り”のあり方と合わせ、ご利用者の立場に立って、“外出のあり方”を検討していく予定である【外部評価21も同様】。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修として情報誌なども利用し、勉強会を行いながら日頃より防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は利用されている入居者様もいらっしゃる為、カンファレンスや運営推進会議においても学ぶ機会を増やしている。	地域包括の方(運営推進会議の参加者)から、「制度の説明をさせて頂ければ」というお言葉を頂き、22年8月、制度の説明を細かくして頂いた。「勉強になった」という感想も聞かれた。欠席者にはパンフレットの郵送が行われ、いつも、ホームにはパンフレットが準備されている。現在、制度を利用している方もおられる。	現在、成年後見制度の利用者もおられるが、ご利用者個々の制度の必要性の検討は、施設長とも相談しながら、今後、行っていく予定である。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約等の問題以外でも些細なことも出来るだけ相談の機会を設け説明を行い理解と納得を頂くよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より入居者様、御家族のご意見を伺える体制づくりに努め記録にとり周知、運営に反映させている。	毎月のお手紙、お電話で報告しており、面会時等にも意見を伺っている。敬老会と忘年会の後に家族会をしているが、「～へ行きたい」と言う言葉が聞けた場合は、職員の勤務を調整して、できるだけ実現できるように努めている。息子さんが、土や苗も持参頂き、ベランダにご本人の役割でもある畑を作る事もできた。	今後も、ご家族と一緒に行動する機会を増やす事で、“ご本人のできること”や“必要なお手伝い”を共有し、色々な情報交換ができるようにしていきたいと考えている。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、主任等との面談の機会を設け、またカンファレンスにおいても話し合いを行いながら反映させていく体制をとっている。	職員の意見を大切にされており、施設長との個人面談(年に1回)、主任との個別面談(年に2回及び必要時)でも話を聞いている。アイデアも増えており、行事内容、外出方法、外食、屋上でできること等の様々な案が上がり、実現に向けた取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の後はそれを元に面談を行う等向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集や採用については制限はなく、勤務表作成時にはスタッフの希望を考慮したり、配置転換の希望が出せる等の配慮がある。	面接の際には、年齢や性別、資格、経験の有無等による制限はなく、笑顔や話し方等の第一印象も大切にしている。職員は年に3回以上、外部研修に参加し、プライベートの目標も毎年立て、実現に向けて取り組んでいる。壁の飾り、調理、書道などの良い所を引き出すようにしており、“待つケア”ができる長所も活かしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年の研修計画に位置付け、学習や啓発の機会を確保している。	理念の中にも、“個人の尊厳を重んじ優しい笑顔と暖かい手を持って・・・”という言葉があり、内部研修(法人全体)は、年に1～2回は人権に関する研修が行われている。“法人全体で職員を支えていきたい”と施設長も考えられており、研修企画も施設長が毎年工夫され、外部講師も数回呼ばれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。年間目標にも外部研修参加各自3回以上と掲げている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、勉強会や相互訪問活動を行い、サービスの向上、交流の機会を持っている。		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階においては特にスタッフが聞き手となり、利用者の不安、必要とすることを伺いながら把握し、対応に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族との関係創りにおいても同様に出来るだけ話す機会を設け、御家族の状況を把握出来るよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を行いながら色々な面でアプローチを行い対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から家事のアドバイスを受れたり、共に生活している関係として、一緒に喜怒哀楽を味わい、支えあえる関係創りに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ御家族に参加して頂けるような催しを企画し、参加して頂くなかで共に支えていく関係を築いている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、入居者様の趣味活動や習慣、馴染みの人達との交流の機会が保たれるよう支援している。	センター方式も活用しながら、日々の暮らしの中で馴染みの方等を把握している。ご家族と自宅に帰り、草むしりを一緒にされたり、同建物のケアハウスの馴染みの方とも交流できている。ご友人と一緒に天神へ外出されたり、ご友人の方等が尋ねてこられることもあり、以前働かれていた場所へお連れすることもある。	外出に関しては、職員数に限界があるため、まだまだ足りない状況にあると感じている。今後、ご家族やボランティアの方にも協力頂き、少しずつでも増やしていきたいと考えられている【外部評価21も同様】
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係は把握している。個々の時間も大切にしながら関わりの時間も確保できるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設行事などの連絡を行い、参加して頂く場合もある。		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等において職員全員で情報提供を行い、思いや意向についても確認しながら本人本位で検討、支援している。	ご利用者の日々の言葉と記録を大切にされている。日々の個別記録には、ご本人のセリフと行動、行動の原因分析とその都度のケアが克明に残されている。入浴の時や団欒時、ベランダでのひと時、お部屋などでも、一緒に会話する時間を作り、思いを伺うようにしている。ご本人の寂しさにも寄り添うようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際に御本人の生活歴を御家族から聞き取り、把握した上で接するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況に合わせる為、状態、現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、御本人、御家族、スタッフ、訪問看護等、関係者と共に話し合いながら作成している。	お若い頃に好まれていた映画をDVDで観て頂いたり、近隣のスーパーへの買い物、ふれあいサロンへの参加も行っており、計画には、“お化粧品やマニキュア等のおしゃれを楽しんでいただく”“ボランティアとの交流”等も盛り込まれている。3表も作成され、個別援助計画も明記されており、訪問看護や歯科スタッフの役割も入っている。	今後も引き続き、ご本人の計画であるという視点を大切にしながら、計画内の表現を検討していく予定にしている。また、定期的な見直しは3ヶ月毎に行われていることもあり、評価期間の記載の仕方も見直していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に御本人が行ったことを記録し、それを活用しながら、要望、気づきに繋げ、計画の見直しや日々の生活に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて出来る限り御本人、御家族の要望に応えるような体制作りをしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御本人の意向、必要性に応じて対応、支援をしていく体制にしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族の要望に沿うかたちで医療を受けて頂いている。医療関係者との関係も合わせ支援している。	通院は職員が行っているが、極力、ご家族にも協力して頂くようにしている。受診結果は、その日のうちに電話で行い、毎月お送りするお手紙にも記載している。施設全体に看護師も勤務されており、毎日ホームでご利用者の健康チェックが行われている。歯科の往診もあり、訪問看護とも連携している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師や協力病院の訪問看護と連携しながら健康管理に努め、必要な受診は迅速に行えるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族や病院関係者との情報交換、相談に努め、出来るだけ早期退院が出来るよう支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の状況に合わせて、御家族との話し合いが出来るようにしている。その時々状況に合わせて方針の共有を図っている。	入居時に、医療行為が必要となった場合の意思確認書を基に説明を行い、状態が変化した場合には、頻回に面談、連絡を行い、主治医も含めた連携に努めている。現在、24時間体制の往診がないため、最後は、病院(さくら病院)でということ伝えて、同意も頂いている。この1年間で2名の終末期ケアが行われたが、病院に転院になるギリギリまで精神誠意対応させて頂いた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや研修会を通じ急変時の対応や事故発生時の対応を学び実践に活かしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行われる施設内の消防訓練等に参加してもらうと共に、運営推進会議を通じ地域との協力体制も築きつつある。	22年10月、ご利用者、ご家族、職員と一緒に夜間想定訓練を行った。法人全体の訓練も、約2ヶ月に1回実施されており、消防署の方も年に1回は来て下さり、アドバイスも頂いている。ホームとして飲料水20L等の準備も行っているが、法人全体でも、同施設厨房に2日間程度の食料が確保されている。	
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に寄り添い、目線に合わせた姿勢や優しい静かなトーンの声掛け等、プライバシーにも配慮した丁寧な対応を心掛け実践に努めている。	理念にも、「個人の尊厳を重んじ…」と明記されており、記録等においても個人が特定できるような個人名は避けると共に、個人情報保護についての勉強会等を通じ、漏洩防止に努めている。排泄の失敗時にも、ご本人のお気持ちを大切に、自尊心を傷つけないような声かけに努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせて対応し、出来る限り自己決定が行えるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々や心身の状況を見ながら、その時々に合わせて対応を心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前の生活状況を伺い、それに合わせた対応に努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を把握しながら対応し、誕生日にお好きな物を召し上がって頂く等考慮している。準備や片付けは出来る範囲でお願いし職員と一緒にやっている。年に数回バイキングや外食の機会を設けている。	常にテーブルには花等の飾りを行い、和やかな雰囲気になるよう心がけている。朝と夕食は施設厨房で作られているが、昼食時には、ご利用者と一緒に食事を作っている。栄養バランスやご利用者の好み等を取り入れ、買物準備、調理、配膳等を、ご利用者と職員が協力して行っている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が確保出来るよう出来るだけこまめに摂って頂く等、個別で対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ御本人の生活ペースに合わせながら支援していくと共に義歯の消毒、歯科往診等必要に応じたケアをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行いながら、出来るだけトイレで排泄して頂くよう努めている。	体調や状態の変化を把握し、早めに声かけする事で、失禁そのものは軽減できているが、失敗する事での自尊心も大切にしている。必要に応じて、ご家族からリハビリパンツの使用をご本人に勧めて頂いた事もあった。リハビリパンツ交換のタイミング等も羞恥心に配慮しており、トイレでの排泄が継続できるように努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては個々に合わせた対応を行い、出来るだけ自然排便となるよう食物繊維を多く摂ってもらう、体を動かす、暖める等で取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に毎日行い、個々の希望、体調、タイミングをみて時間を決めずに行っている。	入浴回数については、ご本人の意思や体力を考慮して行っているが、早めの声かけを行い、できるだけ、お好きな時間に入浴できるようにしている。拒否が強い場合は無理強いせず、翌日入浴して頂いている。入浴時、職員との会話を楽しむと共に、菖蒲湯や柚子風呂等、季節に応じ楽しんで頂いている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ、就寝、起床と特別時間を決めずに対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬、状態を把握し、看護師、医師と連携を図りながら服薬支援を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割(配膳、植物の水やり等)を設け、生活に少しでも張りをもって頂くよう努めている。気分転換に1階にてお茶を飲んだり、屋上を散歩して頂くこともある。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に合わせ買い物や食事等、カンファレンスにて検討を行い、機会を少しでも多くもてるよう努めている。	平均週に1回程度外出している。博多区のお寺でのお花見、大濠公園の日本庭園、川端商店街で飾り山の見物、馴染みのお店にもお連れし、お食事をして頂いた。施設屋上に広いベランダがあり、そこから花火大会を見る事もできるが、ご家族の協力も頂き、畑を作ることもできた。屋上からの見晴らしも良く、ベランダでの気分転換は日常的に行われている。	外出に関しては、職員数に限界があるため、まだまだ足りない状況にあると感じている。現在、屋上のベランダには出られているが、施設外の外出は週に1回程度であり、今後は週に2~3回に増やせればと考えている。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人の意向も踏まえ、御家族と相談のうえ対応している。全員は難しいが所持している方については買い物の際御自分で管理をして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は御希望があれば、住所書き等お手伝いをしたり投函をしている。電話については掛けたいときに対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場として適したものとなるよう努めている。その時々写真や季節の花、季節に合わせた飾りつけ等工夫している。室温管理、こまめな清掃に努めている。	施設の最上階で眺望の良さは抜群であるが、西日が強いので、温度管理にも留意している。リビングも広く、テーブル席、ソファもあり、玄関横のチェアと合わせ、思い思いの場所で団欒されている。ゲストルームもあり、ご家族が宿泊する事もできている。屋上の花壇を利用し野菜作りをして頂き、食材としても活用している。職員手作りの作品や写真も貼っており、日常の話題の一つとなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由に過ごせたり、気の合う方同士で自由に過ごせるベンチを配置する等工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れたものを持ち込んで頂き、御自宅での生活の延長と考えて頂くよう対応している。	ご家族にも協力頂きながら、馴染みの品物をお部屋に持参されている。以前、ご自分で作られた木彫りの家具が置かれ、絵画や、お誕生日に作成したメッセージボードも飾られている。編み物等の趣味の品物もお部屋にあり、居心地の良い空間が作られている。入口には、表札が掛けられている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手摺りを設置し、テーブル等の高さにも配慮している。手の届く位置にアルバムを配置する等工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	22,51	外出に関しては職員数に限りがある為まだまだ足りない状況にある。	入居者様のご意向(行きたい場所や馴染みの場所)や体調を考慮のうえ、屋上や1階(地域交流センター)の利用も含め、外出の頻度を増すよう努める。	御家族やボランティアの方にも協力して頂きながら週2回を目標に取り組む。日常の会話等を通じ御本人のご意向を伺う。	3 ヶ月
2	28	介護計画において、より御本人の計画であるという視点を大切に作成する必要がある。	最低3ヶ月に一度は表現を検討しながら更新していく。	御家族からの支援内容も計画に入れ込んでいく。短期目標を御本人の視点に立ち記載する。	3 ヶ月
3	6	エレベーターは構造上、暗証番号を押して開けるようにしており、入居者様には番号をお伝えしていない。	構造上仕方ないものと決め付けず、引き続き見守りのあり方と合わせ、入居者様の立場に立つて外出のあり方を検討していく。	3ヶ月に一度、カンファレンス、家族会、運営推進会議等を通じ検討する機会を設け改善に繋げていく。	12 ヶ月
4	4,5	地域の方々との交流を深める為にも運営推進会議への参加を呼びかけているが、なかなか難しい状況にある。	毎回関係者の方々に参加を呼びかけ、ご都合を伺いながら出来るだけ参加して頂けるよう働きかける。	御家族、包括の方々等にもご意見を伺い、御協力頂きやすいテーマを考え開催する。遅くとも開催2週間前には開催のご連絡を差し上げる。	12 ヶ月
5					ヶ月